

編集方針

大丸有のCSR

一般的にCSRは「企業の社会的責任」(“Corporate” Social Responsibility)のようですが、私たちのCSRは「コミュニティの社会的対応力」(“Community” Social Responsibility)を表しています。このレポートは、大丸有コミュニティを担うまちづくり団体の活動を「大丸有のCSR」の視点からまとめたものです。

報告範囲

東京都千代田区の手町、丸の内および有楽町の地域(大丸有協議会の対象エリア)を報告範囲としています。

報告期間

原則として、2013年4月1日～2014年3月31日の取り組みについて報告していますが、一部それ以降の活動や計画についても記載しています。

1000年

Towards Sustainable Community

続くまちへ。

大丸有CSRレポート2014



OMY
Community Social
Responsibility
Report 2014



発行日 2014年10月
発行主体 大丸有CSRレポート制作委員会
(構成メンバー)
一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1大手町ビル6階
<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/>
リガーレ(NPO法人大丸有エリアマネジメント協会)
〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1大手町ビル635区
<http://www.ligare.jp>
エコツヅエリア協会(一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-5-1新丸ビル10階
<http://ecozzeria.jp>
制作
イラスト 梁川友世
デザイン 永松大剛(BUFFALO.GYM)
編集 株式会社クロスロード

ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C020841
用紙協力 三菱製紙株式会社
ダイイラストFSC®認定-MIX

1000年先まで、 いきいきとしたまちでありたい。

多様な“人”と“コミュニティ”がつながり新しい価値を生み出す——
そんなサステイナブルなまちづくりを進めるため、わたしたち大丸有は
「大丸有サステイナブルビジョン」にもとづき、ステークホルダーの
皆さんと連携しながらさまざまなアクションを展開しています。



気づいて、変わっていく人を支援するまち
人が活発で健やかに活動できるまち
みんなが安全・安心に過ごせる快適なまち
居心地の良さを感じるパブリックスペースがつながるまち
人がつながり創造性を高めるきっかけがあるまち
アイデアや思いを実現できるまち

ACTION P.8へ

多様なコミュニティをつくります

大丸有サステイナブルビジョン
VISION

「絆」という資本を基盤に社会を良くするビジネスを生み出し続けるまち——
私たちが描く未来、“大丸有サステイナブルコミュニティ”へ向けて

エリアマネジメントを
進めています

まちや人の状態を見守り続けるまち
多様な活動を生み出すまち
みんなでつながり運営しているまち

ACTION P.14へ

多くの**イノベーション**を
生み出し波及させていきます

多様性を高め様々な課題を共有するまち
他の地域と手を取り合って新たな解決策を生み出すまち
社会の課題を解決し世界へ“いい波紋”を広げるまち

ACTION P.17へ

大丸有サステイナブルビジョンは、上記の「コミュニケーション」「イノベーション」「エリアマネジメント」の3つの領域と、12のビジョンで構成されます。8ページ以降の各アクションについては、それぞれのビジョンに関連づけて整理しています。また、4つの柱「環境」「安全」「健康」「創造」のどれに該当するかがアイコンで示されています。

大丸有サステイナブルビジョンは、有識者・関係団体からなる策定委員会において、2012～13年の約1年間の議論を経て決定された、まちづくりの指針です。



千葉大学法経学部
総合政策学科 教授
広井良典 (ひろいよしのり)

大丸有は、ビジネス街であるとともに、東京と地方を「つなぐ」機能を象徴的にもつ場所でもある。これまで東京と地方の関係性は、「(海外→)東京→地方」という情報の一方向的な流れだったが、むしろ今後は地方で新たな動きや試みが生まれ東京や世界に発信されるというベクトルが活発化していくだろう。そうした中で大丸有は真の意味での出会いと「フォーラム」の場になっていく。今回のビジョンはそうした時代の潮流にふさわしいものと言えるだろう。



東京大学
生産技術研究所 准教授
加藤孝明 (かとうたかあき)

人がいてまちがある、そこでの営みの蓄積が歴史である。120年以上の歴史の中で創りだされた多様な価値が現在の大丸有に引き継がれている。サステイナブルビジョンは、環境・防災・健康・文化・自己実現、人が求めるすべての視点を包含している。そして、人と人との出会いにより創発を生み出す環境づくりを志向するこのまちを触媒として、新たな価値観を生み出す営みを喚起し、次の時代の文化を拓くであろう。

「大丸有サステイナブルビジョン」に寄せて 策定委員から



東京大学大学院工学系研究科
都市工学専攻 教授
小泉秀樹 (こいずみひでき)

多様な人とコミュニティがつながり新しい価値を生み出す、という「大丸有サステイナブルビジョン」の基本コンセプトは、現代的コミュニティ・デザインの考え方そのものだ。つまり、大丸有という世界に名だたるCBD*を舞台として、対話の場をデザインし、さまざまなコミュニティを生み出し、そこからイノベーションを引き起こす。とても魅力的でこれまでにない都心のモデルとなるだろう。ビジョン策定に関わった一員として、今後も協力していきたい。 *CBD…Central Business District (中心業務地区)



三菱総合研究所 主席研究員
松田智生 (まつだともお)

サステイナブルには環境だけでなく、高齢化、健康、雇用、子育て、観光、災害など多様な要素がある。特に世界一の高齢化は大丸有でも大きな課題になっている。今重要なのはこれをピンチではなくチャンスと捉える発想。大丸有に活力ある多世代が集い、働き、学び、活躍する。将来は「経済のダボス」に並んで「サステイナブルを知りたいければ大丸有へ行け」と、世界から注目されるような夢のあるまちづくりを期待している。

大丸有について

東京都千代田区にある、大手町・丸の内・有楽町の3地区は、日本の発展を支えたビジネスと文化の中心地として、地理的・文化的・経済的な結びつきが強く、これまで一体となってまちづくりを進めてきました。その過程で、地区にかかわる地権者・ビルオーナー、立地企業、立地店舗、就業者、行政、インフラ事業者、来街者などの人びとが有機的に連携し、形づくられてきたコミュニティが大丸有*です。
*大手町・丸の内・有楽町それぞれの頭文字をとって名付けられました。

「大丸有サステイナブルビジョン」を詳しくお知りになりたい方、取り組みにご支援・ご協力いただける方は、エコツェリア協会事務局 (conciierge@ecozzeria.jp) までご連絡ください。冊子のPDFファイルは、下記よりダウンロードできます。
<http://www.ecozzeria.jp/about/vision.html>



トップメッセージ

TOP MESSAGE

大丸有エリアにおいて持続可能なまちづくりを推進する
3つの組織の代表者からのメッセージです。

人びとがいきいきと活動できる 「大丸有サステイナブルコミュニティ」へ



一般社団法人 大丸有環境共生型
まちづくり推進協会(エコツヴェリア協会) 理事長

伊藤滋 (いとう・しげる) 写真中央

特定非営利活動法人
大丸有エリアマネジメント協会(リガール) 理事長

小林重敬 (こばやし・しげのり) 写真左

一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会(大丸有協議会) 理事長

合場直人 (あいば・なおと) 写真右

大丸有エリアでは、大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会、NPO 大丸有エリアマネジ
メント協会(リガール)、大丸有環境共生型まちづくり推
進協会(エコツヴェリア協会)が中心となって、まちづく
りを推進しています。

2013年、私たちは社会や経済など、より多様な課
題に対してイノベーションを生み出し続け、サステイナ
ビリティを高め進化していくことを目指し、新たに「大丸
有サステイナブルビジョン」を策定しました。ビジョン
では安全、環境、健康といった当エリア内の課題解

決に加えて、「創造」性の支援を柱の一つに掲げ、よ
り一層「人びとがいきいきと活動できる」場づくりに重点
をおいています。

私たちはこのビジョンを実現するため、公的空間や
交通網の発展的な活用、災害時にも助け合える“顔
が見える”活動づくり、生物相の保全に配慮しながら
人が気持ちよく憩い集える緑地、人が健やかに働き暮
らすことができる仕組みづくりなどのアクションに、着実
に取り組んでいきます。

一方、当エリアで培われた共有価値を生み出す
基本理念とビジョン、ビジネスモデルやノウハウを、復
興支援や地域振興などの社会課題の解決に結びつ
ける人材や企業が国内外のさまざまなフィールドで活
躍を始めています。

こうしたコミュニティネットワークを社会資本として、
大丸有エリア由来の活動を広げ、外部への発信を
通じて、多様な人びとが集う新たな都市観光の姿を
見出すと同時に、日本を総覧できる学びと事業創発
の場として、ヒト・モノ・コトの好循環を生み出すこと
を目指します。そして、エリアマネジメント活動の向上と、新
たな競争力を生み出すビジネスセンターとしての基
本機能の継続的な強化に取り組み、サステイナブル
コミュニティづくりを推進していきます。

特別寄稿

CONTRIBUTION

「大丸有サステイナブルビジョン」策定委員長からのメッセージです。



サステイナブルビジョン 策定に寄せて

東京大学生産技術研究所 教授
野城智也 (やしろう・ともや)

人類社会のサステイナビリティは、環境的、社会
的、経済的サステイナビリティの三本柱で支え
られています。2007年版環境ビジョンは、環境的サ
ステイナビリティへの脅威を最重要視して起草されまし
た。しかしながら、その後世界規模での知識経済の
進展によって都市への情報・知識の集積はさらに加
速し、イノベーションを持続的に引き起こしていくコミュ
ニティの形成の成否が都市の興廃を益々左右するよ
うになりました。一方、未曾有の大災害は、集積度を
高めるほどに現代都市の脆弱性が高まっていることも
露呈しました。まさに、環境的サステイナビリティだけ
ではなく、社会的、経済的サステイナビリティにかかわ
る課題を解決していかなければ、まちの持続はおぼつ
かなくなっています。

環境的、社会的、経済的サステイナビリティの三本
柱を盤石にしていくこと—それが2013年版サステイナ
ビリティに込めた私たちの思いです。

その場所でしか得られない知識情報(sticky
information)に溢れ、さまざまな出会いと結びつきの機
会が数多くあり、安心して楽しく暮らせるアメニティの
高いまち、そうしたまちは、世界中から才能のある多様
な人材を惹きつけ、唯一無二の個性的なコミュニティ
を形成し、持続的なイノベーションを生み続け、結果と
してサステイナビリティの三本柱を強化しています。

大丸有がこうしたまちの魅力を生み出すための十
分な基盤があることはいうまでもありません。しかし、世
界の諸都市も、イノベーション・コミュニティ形成のた
めの真摯な努力を払っています。大丸有の魅力が
衰えれば、多様な人材は国境を越え流れていき、知
識情報の集積が失われていく可能性もあるのです。

こうした認識にたつて、私たちは「人」と「絆」を本
ビジョンのキーワードに据えました。大丸有が、人間本
位のまちで、人と人、組織と組織の多様な結びつきを
促し育成していくまちであり続けるならば、1000年の持
続も決して夢ではありません。

本ビジョンが、大丸有でのイノベーション・コミュニ
ティの賦活と、サステイナビリティの三本柱の強化に
寄与していくことを願ってやみません。

INSIGHT

サステナブルビジョンは、人とコミュニティの活動を重視しています。
人がいきいきと活動していくためのヒントをお二方からうかがいました。



日本再生のかぎを握る 「健康経営」のススメ

2014年の政府の成長戦略「日本再興戦略」改訂版の中で、「健康経営」が盛り込まれました。健康経営とは、企業の持続的成長を図る観点から、従業員の健康に配慮する経営手法のこと。いまや健康経営は社会への投資であり、日本経済の再生に欠かせない一要素と言えます。

その背景には、超少子高齢社会に突入した日本の現状があります。今後、労働人口の減少を背景に企業の定年延長が進むと考えられ、従業員の健康への配慮は必須となりつつあります。また、地域社会においても、要介護の人を抱えることは労働力や税収の減少を招きます。健康経営は企業の成長を促すだけでなく、地域社会の健全な機能を継続させるうえで欠かせない取り組みなのです。そうしたなかで近年、日本政策投資銀行およびヘルスケア・コミッティーによる「DBJ健康経営格付け」を皮切りに、各省庁や自治体による健康経営企業の評価の動きが広がっています。

健康経営の取り組みは エリア全体で

しかし、現状は健康経営の本質を理解している企業はまださほど多くはありません。健康経営を広めていくためには、取り組みの効果を可視化することと、必ずしも短期的な効果だけではないことから、健康経営に取り組む企業を社会的に評価し、経営者が取り組みやすいような仕組みを社会で用意することが大切です。したがって、1社だけで取り組むよりも、例えばエリア全体で面的に取り組むほうが効果的です。職場環境を共有する大丸有のようなエリアで取り組むことには、大きなメリットがあります。

まず、健康経営のノウハウやデータをエリア内で共有することで、有効な対策を打つことが容易になり、互いに啓発し合えます。

また、エリアで取り組めば、取引先やエリアへ訪れる人に対しても広く健康情報を発信することができます。

Yuji Furui

古井祐司



ふるい・ゆうじ 東京大学特任助教、医学博士、ヘルスケア・コミッティー代表取締役会長。産学連携のもと、予防サービスの提供に取り組む厚生労働省、経済産業省、地方自治体、医療保険者団体などの委員を務める。著書に「わかるとかわる——特定健診・保健指導」(カゼン出版)など。

社員の健康づくりが、 企業の成長を促し、 社会の持続的発展の ための投資になる

このように外向きの健康経営の取り組みを進めることで、企業ごとに金利・保険料・税制などの優遇措置が付与されるだけでなく、建物の容積率の緩和や街が活性化するというエリア全体が社会的に評価されることが期待されます。

大丸有というエリアでこのような取り組みが始まると、そこで働く人だけでなく、企業が参画することで様々な工夫や仕掛けを導入することが可能になります。健康経営ランキングや健康カフェなど取り組みを象徴するようなブランドを是非、大丸有から全国に発信していただきたいですね。

Atsuko Yoshida

吉田敦子



よしだ・あつこ 2013年2月から経済産業省サービス政策課課長補佐(取材当時。現在は経済解析室参事官補佐)。東京大学大学院都市工学専攻修了後、経済産業省に入省。以来、文化庁国際課、経済産業省の通商機構部や伝統的工芸品産業室などに所属。石川県出身。

社員を大切にし、 顧客に愛され、 地域社会に貢献する 「おもてなし経営」が、 日本を元気にする

「おもてなし経営」は三方良し

現在、経済産業省のサービス政策課では、日本のサービス産業を盛り立てようと、さまざまな施策に取り組んでいます。その背景には、昨今の少子高齢化や都市部への人口集中による国内市場の競争激化、グローバル化への対応などにより、サービス事業者の多くが激しい価格競争に晒されている現状があります。

一方で、価格競争に陥ることなく、顧客からも地域からも愛され、安定的、継続的に経営を行っている優良

企業が存在するのこともまた事実。そうした企業の特徴をみると、多くの場合、①社員の意欲と能力を最大限に引き出し、②地域・社会との関わりを大切にしながら、③顧客に対して高付加価値・差別化サービスを提供している、ことがわかります。これはいわば、かつて商い上手と言われた近江商人が大切にしていた「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の3要素、すなわち「三方よし」の理念に通底するものです。高度経済成長期以降の経済活動の中で忘れられていた日本独自の経営の心に、これからの時代を生き抜くヒントがあったと言えます。

そこで経済産業省では、この3要素を備えた経営を「おもてなし経営」と名付け、2012年度から「おもてなし経営企業選」として表彰しています。2013年度は28社を選出しました。

サービス業だけでなく、 すべての企業に通じる心

ところで、おもてなし経営という、その言葉の意味から「顧客に尽くす」経営というイメージを持たれるかもしれませんが、そうではありません。過剰なサービスにより社員が疲弊してしまうようでは、継続的な経営は難しいでしょう。求められるのは、経営者、社員、顧客、地域がともに幸せであり、結果としてうまく経営が回るという循環。そうした企業風土がいかんにして培われたのかを紹介することにより、多くの企業の経営のヒントにいただければと考えているのです。

選考された企業はサービス業のみならず、製造業や建設業などさまざままで、おもてなし経営の取り組みも実に多様です。おもてなしの経営マインドは、サービス業や中小企業だけでなく、すべての企業に共通するものだといえます。そして、その多様な事例を見てみると、まだまだ日本も捨てたものじゃないと思えてきます。今後、おもてなし経営を実践する企業が増えていけば、日本の未来は明るいでしょう。大丸有の大手企業、とくに金融機関の方々には、おもてなし経営という非財務価値の重要性に、ぜひ、気づいてほしいと思います。

ACTION

1000年続くまちを目指して、大丸有にかかわる人びとと連携・協力して進める、さまざまな取り組みをサステナブルビジョンに沿って紹介します。



気づいて、変わっていく人を支援するまち

創造 環境 エコ結び

大丸有エリアの約600店舗の加盟店で、Suica、PASMOを使って買い物、飲食するだけで、誰もが無理なく環境貢献できる「エコ結び」。代金の1%が「エコ結び基金」に積み立てられ、さまざまな環境活動を支援しています。

2013年度実績
積立基金 約1,180万円
加盟店舗 約600店
決済件数 1,348,810件
お問い合わせ
0120-234-115
受付時間 10:00~17:00(土日祝・年末年始除く)
<http://ecomusubi.com>

エコ結び基金の使いみち

大丸有エリアで大量に消費される「紙」の源である木を育てる森。その森を守るために、エコ結びは、都市と森をつなぎ、木や森、自然の大切さを知る機会づくりを支援しています。

つながる食プロジェクト

食を通じて都市と生産地をつなぐ「大丸有つながる食プロジェクト」。食材の共同調達と食のコミュニティづくりに基金を拠出。



スプーン手作り体験



国産の間伐材を使ってのスプーンづくり。木を削りながら、森林保全の大切さも学べるイベントの開催をサポート。

環境プロジェクト in 大丸有

大丸有に集う人びとに向けワークショップを支援。13年は丸の内ハーマンミラーストアで「石巻スツール」づくりを実施しました。



もりもりキッズ in ひのはらむら

毎年夏に実施される環境教育プログラム「エコキッズ探検隊」に基金を拠出。2013年は東京から2時間半の檜原村で、ツリークライミングなどを通して森や生き物などを学ぶプログラムに基金を役立てました。

参加方法

レジの近くにこのステッカーのあるお店でSuica、PASMOを使ってください。



大丸有エリアでは本誌で紹介した以外にもさまざまなアクションを展開しています。すべてのアクションはWeb版CSRレポートでご覧いただけます。☞ <http://ecozzeria/csr2014/action>

人が活発で健やかに活動できるまち

創造 健康 ピンクリボンスマイルウォーク東京大会

乳がん月間の10月に、乳がんの早期発見・診断・治療の大切さを伝えるため開催されている「ピンクリボンフェスティバル」。リガーレではその趣旨に賛同し、メインイベントの「ピンクリボンスマイルウォーク東京大会」の給水ポイントの運営を行っています。

2013年度実績
参加者 約2,200人(10kmコース)
配布飲料水 約1,560本
ボランティア 10人
ホームページ
<https://www.pinkribbonfestival.jp/>



「ピンクリボンフェスティバル」を伝える活動リガーレのメールマガジン等で募ったボランティアの皆さんと、丸ビルの屋外広場で参加者に給水用のペットボトルを配布しました。乳がん撲滅へのメッセージが記されたピンクリボンを結びつけられたツリーは鮮やかなピンクの花が咲いたようでした。

キリンビバレッジ(株) 営業本部市場開発部 加世勝也さん



キリングループの共有価値観である「食と健康」のよろびを広げていく活動の一環として2007年よりピンクリボン活動を応援しています。この活動への参加は大丸有エリアの方からの提案がきっかけです。いまでは「ピンクリボン自販機」も全国に広がり、給水ポイントの運営とあわせて、一人でも多くの人に関心をもってもらい検診率アップと治療につながればうれしいですね。

売上金の一部が日本対がん協会に寄付されるピンクリボン自販機。設置台数は1,000台を突破し、共感の輪が広がっている。当エリア内では有楽町マリオンの特設がん協会などに設置。



健康 丸の内駅伝2014

開始から6年目を迎えた丸の内駅伝。2013年度は仲通りをスタート地点として開催されました。丸の内エリアの就業者にとって一日の大半を過ごすこのエリアで、心身ともに健康で健やかな毎日を送るために、人のサステナビリティを支えるイベントやサービス機能が増えつつあります。

2013年度実績
参加者 50チーム300人(1チーム6人)
コース 丸の内仲通り、丸の内2丁目エリア、丸ビル 約1.8kmを12周(1人2周)
優勝チーム 「昔ほどがんばれません」
タイム 1時間16分20秒
ホームページ
<https://www.marunouchi-event.com/ekiden/>

優勝チームは「昔ほどがんばれません」

大丸有エリアの就業者を中心に抽選で選ばれた50チーム300名が、熱戦を繰り広げました。写真は、2位と約3分の差をつけて優勝したチーム「昔ほどがんばれません」。





みんなが安全・安心に過ごせる快適なまち

安全 東京駅周辺防災隣組

2004年1月に設立された「東京駅周辺防災隣組」は、千代田区における地域協力会として、「事業継続地区計画の提唱」「防災隣組全国会議の主催」「帰宅困難者支援対策訓練」をはじめ、まちの防災機能を高めるための活動や災害時における協力体制づくりなどに取り組んでいます。

2013年度実績

会員企業 102社
<http://www.udri.net/tonarigumi/indextonarigumi.htm> (ホームページ)
<https://ja-jp.facebook.com/tokyoekitonarigumi> (フェイスブック)

2013年に三者協定を締結



2012年からは、平常時・災害時における防災隣組の活動を、明確にするため「ルールブック」を策定し、毎年内容を見直し更新しています。2013年9月に、千代田区医師会、三菱地所、防災隣組による「災害時医療連携三者協定」を締結しました。大規模災害発生時には、三者が協同して対応します。2014年3月

7日には、「帰宅困難者支援対策訓練」での三者で連携してのトリアージ等訓練が行われました。



トリアージ訓練

創造 環境

安全 健康

大丸有エリア内再開発

大丸有は、PPP(公民協調)の考え方のもとに組織された、「大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり懇談会」が策定した、「大手町・丸の内・有楽町地区まちづくりガイドライン」に沿った再開発を進めています。政策と連携した総合的まちづくりにより、大丸有の付加価値を高め、東京都心としての持続的な発展を目指しています。

2013年度に竣工したビル・施設

グランルーフ/読売新聞東京本社ビル/大手町タワー(一次竣工)

2014年度竣工のビル

日本生命大手町ビル

施工中の事業

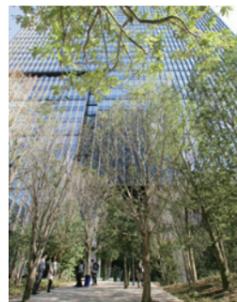
(仮称)三井住友銀行本店東館計画など 4件

計画中の事業

大手町二丁目地区再開発事業など 4件

環境や安全への配慮

大手町タワーに併設された大手町の森は、「仲通り」から続く沿道緑化の流れを大手町エリアにつなげる「緑のネットワークの基点」です。読売新聞東京本社ビルは、千代田区と災害時に帰宅困難者を受け入れる協定を結んでいます。最大1,060人を受け入れることが可能で、ビル内の施設を利用して、乳幼児を抱えた帰宅困難者にも対応します。



大手町の森



読売新聞東京本社ビル



居心地の良さを感じるパブリックスペースがつながるまち

環境 大手町川端緑道

2014年4月22日、大手町の日本橋川沿いに歩行者専用道路「大手町川端緑道」が開通しました。江戸城外堀の石積み保存されるなど歴史を感じる空間に、四季折々の花々や緑、水に親しみながらゆったりと散歩を楽しむことができます。憩いの場としてのみならず、さまざまなイベントの開催など賑わいを創出するスペースとして活用が計画されています。

施設概要

区間 大手町1~2丁目の日本橋川沿い
 幅約12メートル
 総延長約780メートル



大手町川端緑道

開通イベントではキッチンカーが登場し、緑道に並ぶベンチでランチを楽しむ人の笑顔があふれました。



環境 打ち水・盆踊り

2013年は猛暑の中、大丸有エリア4ヵ所(行幸通り、有楽町イトシア前、東京サンケイビル前、東京国際フォーラム広場)で打ち水イベントを展開したほか、7月26日から8月31日まで仲通り、有楽町の路面店が参加する「打ち水Weeks」を実施しました。7月26日には9回目となった行幸通り打ち水イベントと連動し、エリア内企業、就業者の環境意識のさらなる向上と、来場者の交流促進を目的に、盆踊りまつりを開催。丸ビル前の櫓を中心に終了時刻の21時すぎまで多くの人で賑わいました。

大丸有打ち水プロジェクト

場所 大手町、丸の内、有楽町各会場
 参加者数 各会場計 約2,700人
 参加団体・社・店舗数 179
 中水使用量 1,800リットル
 打ち水Weeks 参加店舗・施設 96
<http://www.ecozzeria.jp/events/uchimizu/>

東京丸の内盆踊りまつり

場所 丸の内仲通り、マルキューブ、丸ビル外構部、三菱商事ビル1F
 来場者数 約11,500人
 キッチンカー 9台
 キッチンカーメニュー提供数 約2,300食



大丸有打ち水プロジェクト/行幸通り打ち水



東京丸の内盆踊りまつり2013



絆を強化する多様な
コミュニティをつくります

人がつながり創造性を高めるきっかけがあるまち

創造 3×3 Labo(さんさんラボ)

2014年1月17日、丸の内・富士ビル3Fに登録制オープンスペース、3×3 Laboが開設されました。建替えが予定されている富士ビルを開放。大丸有エリアの強固なビジネスコミュニティがもつ経営資源を社会課題解決へと結びつける、CSVビジネス創発支援の場として、8ヵ月にわたりセミナーやワークショップなど、さまざまなプログラムが実践されました。

施設概要

富士ビル3階、面積 約1,100㎡
(SALON-LABO-EXHIBITIONゾーン)
常設展示 デジタル地球儀「触れる地球」
朝大学テレビスタジオ併設
開設期間 2014年1月17日～9月5日
実績
来場者数 約20,000人
オープンイベント 356回
<http://www.ecozzeria.jp/fujibldg33/>

「3 Gear × 3rd Place Laboratory」

3×3 Laboはサステナビリティの3要素「経済・社会・環境」がギアのごとく噛み合い、さらに会社でも自宅でもない第3の場所「サードプレイス」として業界業種の垣根を越えた交流・活動拠点として機能する場所を意味しています。



企業、行政、NPO、個人といった立場を越え、社会課題を解決する活動の事例を発表しアイデアを共有する「ソーシャルグッド会議」は6回開催され、ディスカッションや交流は具体的なプロジェクトに生かされています。



セミナー内容をストリーミング中継

2014年7月5日、政策分析ネットワークとヤフー(株)共催のセミナー「新成長戦略の評価と今後の課題」が開催されました。パネラーに竹中平蔵氏(慶応大学教授)、伊藤元重氏(東京大学教授・政策分析ネットワーク代表)、関口和一氏(日本経済新聞論説委員)の3氏を迎え、安倍内閣の新成長戦略の内容の吟味と課題の検討が行われました。セミナーには200名を超える来場者が詰めかけ、ヤフーではストリーミングによるライブ中継が行われました。



3×3ラボセミナー プロデューサー
株式会社真雄 代表
土谷貞雄さん



スモールスタートした3×3ラボから1年も経たないうちに、社会課題解決のためのプラットフォームといえるまで大きく成長したことがとても嬉しいです。いま企業人には、このようなサードプレイスが必要で、それが大丸有エリアで実現できたことに大きな意義があり、エポックメイキングなことだと思います。

アイデアや思いを実現できるまち

創造 CSRイノベーションワーキング

エコツェリア会員企業を中心に、CSR・CSVについて学び、知見を広める場です。2013年度からはセミナーといった座学だけでなく、フィールドワークを本格的に導入し、学びの場から実践の場へと進化させています。

2013年度実績

実施回数 12回
(フィールドワーク 5回)
「エコのまど」参加企業 40社
会員についてのお問い合わせ
エコツェリア協会事務局
03-6266-9400



一般を対象にしたイベントも実施

これまでの会員企業を中心としたクローズドなネットワークから、会員でなくてもCSVに関心のある人びとも対象にしたオープンなものにシフトしはじめています。2013年11月1日には放送作家のさいとうかおりさんをゲストに迎え、一般向けにワールドカフェ方式のイベントを開催しました。

横浜美術館でフィールドワーク



2013年8月23日にはMMcc(Minato Mirai community club)運営メンバーと合同のワークショップを横浜美術館で開催。まちや地域をよくするために何が



必要か、活発な議論が交わされました。ディスカッション終了後は、開催中のプーシキン美術館展「フランス絵画300年」を鑑賞しました。

会員企業の社員食堂訪問も

2013年4月24日、大成建設(株)の社員食堂を訪問。食堂は600席の大空間。社員の健康と食材の廃棄量を少なくする工夫がされたメニューが並んでいます。夕食の営業もあり、毎日1,500食が提供されています。ランチをいただきながら、コミュニケーションや社員の健康という視点から、CSR活動における社員食堂の重要性について考えました。



「エコのまど2013年度版」の制作

1年間の成果をポスターにして発表展示会を開催。さまざまなテーマが並び、気づきやアイデアを共有しました。

「エコのまど」PDF版 <http://www.ecozzeria.jp/wg/entryimage/20140414/エコのまどpdf.pdf>

エーシーシステムサービス(株)
ボード事業部リーダー
河波雄大さん



当社はパネル to パネルの完全リサイクルを実現した「Recoボード」を開発、製造しています。本品は「エコのまど2013年度版」のパネルとしても採用いただき、廃棄物の削減に貢献できました。大丸有エリアにはこのワーキングのように出会いと学びを実践に結びつける多くの機会がありますので、今後の活動も楽しみにしています。

エリアマネジメントを進めていきます

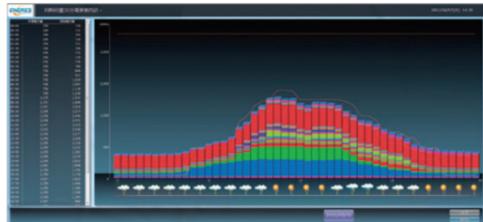
まちや人の状態を見守り続けるまち

環境 デマンドレスポンス実証実験

新丸ビルに入居している旭硝子、三菱UFJリースの協力を得て、2013年度に東京都と共同してデマンドレスポンス実証事業を実施しました。

2013年度実績
実証実験期間の電力の省エネ実績 10%減

具体的には、電力消費の見える化機能、高度な照明制御機能を加え、省エネの削減率を検証しました。



電力消費見える化モニター

デマンドレスポンス機能の実用性検討

デマンドレスポンス機能のテナントビルへの適用可能性を検討するにあたり、本機能が単に電力の「需給逼迫時」や「災害時」のピークカットのためだけでなく、お客さまの省エネニーズを満たす仕組みとして活用できないかを中心に検証しました。



三菱地所 開発推進部
奥山博之さん

ご協力いただいた2社ともに、これまでも省エネに力を入れている企業でしたので、さらに10%程度の省エネを達成できたことに対し、非常に喜んでいただきました。今回の実証では、ファシリティマネージャと就業者が円滑にコミュニケーションできる機能を提供しました。その結果、就業者の快適性を維持しながらも、省電力を実現できることがわかったのは、大きな成果でした。

創造 環境

安全 健康

大丸有データブックの作成

2014年3月に、三菱地所、大丸有協議会、リガーレ、エコツェリア協会の4団体は「大丸有データブック2013」をまとめました。大丸有に関連するさまざまなデータを一覧できるよう編集したものです。

2013年度実績
指標の数 111項目
データ収集期間 2013年1月～12月

まちづくりへの情報発信

これまで、大丸有CSRレポートで「大丸有の健康診断」として掲載してきたデータに加えて、まちづくり組織や民間企業、行政等がそれぞれ発表していた大丸有に関連するさまざまなデータをワンストップで一覧できるよう編集したものです。今後もこれらのモニタリングデータを継続的に収集・更新を行っていくことで、まちづくりにおける情報発信に役立てたり、将来の計画のための重要な基礎データとして役立てていきます。



エコツェリア協会
山田尚子さん

大丸有のブランド力がひと目でわかるデータブックです。これからのまちづくりにおいて、強いところをさらに伸ばし、弱いところを強化していく、そんな施策を打ち出すための基礎、根拠になります。これから毎年更新予定で、今後はエリアの競争力強化に役立てていきたいです。



多様な活動を生み出すまち

創造 環境 リガーレセミナー/ママカフェ

オフタイムの交流をとおして、コミュニティ形成を図ることが目的のリガーレセミナー。2013年度は「丸の内フラワーアカデミー」「高野山AJIKANセミナー」「日本酒セミナー」「オーラルケアセミナー」など、さまざまなジャンルの8種類のセミナーを18回開催しました。

2013年度実績
セミナー実施回数 18回
セミナー参加者数 266人
お問い合わせ
03-3287-5386
リガーレ (NPO法人大丸有エリアマネジメント協会)
E-mail: ligare2002@ligare.jp



ママカフェが定期開催に

ランチタイムに、お弁当を持ち寄って情報交換をしたり、子育てに役立つ講演会などを開催しています。2014年2月から定期開催になりました。



創造

ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭

東京国際フォーラムで毎年5月の大型連休期間中に開催される、クラシック音楽の祭典「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン熱狂の日音楽祭」。9回目を迎えた2013年は、「パリ、至福の時」をテーマに開催されました。かつては、オフィス街としての色が濃く休日には閑散としていた丸の内エリア。クラシック音楽という魅力的な文化を吹き込むことで、多彩なコミュニティが生まれています。

2013年度実績
開催日時 2013年5月3日～5日
来場者数 51万人
お問い合わせ
<http://www.lfj.jp/lfj>

参加型のイベント「みんなでポレロ」

初めての試みとしてフラッシュモブによる観客参加型のイベント「みんなでポレロ」を実施、好評を博しました。



©三浦興一



©三浦興一



エリアマネジメントを進めています

みんなでつながり運営しているまち

環境 丸の内シャトル

丸の内シャトルは、日本橋の「メトロリンク日本橋」、臨海副都心の「ベイシャトル」と並んで、全国でも珍しい無料巡回バスです。地元企業の協賛金により無料で乗車することができます。大丸有エリア内の一周約35～40分のルート、10時から20時までの間12～15分間隔で運行しています。

2013年度実績

1年間の利用者数 約63万人
1日の平均利用者数 約2,000人

お問い合わせ
03-3955-1188
日の丸自動車興業株式会社 板橋営業所
<http://www.hinomaru.co.jp/metrolink/marunouchi/index.html>



アプリ登場

2013年9月には、バスがいまどこを走行しているのかひと目でわかるスマートフォン用のアプリをリリースしました。大丸有周辺の施設情報の案内も。Android、iPhoneいずれの端末でも利用することができます。



創造 環境 健康 安全 大丸有協議会25周年記念シンポジウム

2013年に設立25周年を迎えた大丸有協議会は、2014年4月15日に丸ビルホールに306名を集めて記念シンポジウムを開催しました。



多くの提言を今後へ

第1部の講演に続いて行われた第2部のパネルセッションでは、これからの大丸有が「イノベーション・文化・地域連携」を高めていくには何が必要か、参加された方々から多くのご提言をいただきました。



シンポジウム登壇者(敬称略)

挨拶・祝辞
福澤武(大丸有協議会会長)、石川雅己(千代田区長)、安井順一郎(東京都)

祝電
舩添要一(東京都知事)

第1部講演
金城敦彦(大丸協議会)、中村純(国土交通省)、大森幹夫(千代田区)、永島恵子(東京都)、井上成(エコツェリア協会)

第2部パネルセッション
仲條亮子(グーグル株)、岸井隆幸(日本大学)、野城智也(東京大学)、山口正紀(千代田区)、小野幹雄(東京都)、中村純(国土交通省)、合場直人(大丸有協議会理事長)



多くのイノベーションを生み出し波及させていきます

多様性を高め様々な課題を共有するまち

創造 EGG JAPAN(日本創生ビレッジ)

日本を代表するビジネスセンターである丸の内が、これからも世界から選ばれる魅力的なまちでありつづけるために、日本未進出の海外成長企業や世界展開を目指す日本の中小ベンチャーを対象に、事業開発支援や誘致を行う拠点として2007年に新丸の内ビル10階に開設されました。

2014年1月現在

入居企業数 37社
区画数 43区画(新丸ビル10階・9階、日本ビル 合計)
2013年度までの支援企業上場実績 5社
お問い合わせ
EGG JAPAN(日本創生ビレッジ)
03-3287-7310
<http://www.egg-japan.com/>

発展拡張中

EGG JAPANはオーダーメイド型の事業開発支援が受けられる「ビジネス開発オフィス」と会員制ビネスクラブ「東京21cクラブ」から構成されています。2013年は、プロジェクトの拡大に伴い、施設を新丸の内ビルの9階と日本ビルの10階に拡張しています。

「東京21cクラブ」ネットワーキングパーティー

年2回、クラブメンバーや入居企業等を対象に開催。毎回200名ほどが参加し、大きなビジネス交流の場になっています。



三菱地所(株) 街ブランド推進部 東京ビジネス開発支援室

島田映子さん

入居企業様に対してEGG JAPANネットワークを活かし、市場参入支援、ビジネスパートナーの紹介等を行っています。企業が成長する姿を目の当たりにしたり、丸の内を評価していただいているのを耳にするのは嬉しいですね。ここで成功する企業を増やし、国内外の成長企業のコミュニティをさらに広げられたらと思います。



創造 エコキッズ探検隊「出前授業」

大丸有エリア企業の環境教育プログラムを、小学生対象に実施しているエコキッズ探検隊が、千代田区の小学校に出向いて、エネルギー、資源、食などの理解を深めてもらうための授業を実施しているのが「出前授業」です。

2013年度実績

実施回数 14回(6校)
受講者数 769人

子どもたちの期待も大きくなっています



出前授業はプログラムを実施する企業と、CES(千代田エコシステム)、エコキッズ探検隊事務局の

3者が合同で実施しています。2年目となる2013年は、実施回数も2倍に増え、児童や先生方からの期待も大きなプロジェクトとなっています。

一般社団法人ディレクトフォース

企業の元経営メンバーたちが培った知見を社会に役立てる趣旨で設立しました。子どもたちの理科離れに危機感を抱いている我々としては、千代田区の小学校で実験活動を実施できたことを、大変有意義に感じています。授業では、楽しんでもらう中で、観察や考察という理科だけにとどまらない大事な習慣を身につけるキッカケにしたいと考えています。



多くのイノベーションを生み出し波及させていきます

他の地域と手を取り合って新たな解決策を生み出すまち

創造 健康 **マルシェ**

丸の内 行幸マルシェ×青空市場



毎週第2・第4金曜日に青空市場主催で定期開催される行幸マルシェは、東京駅や周辺の駅の利用客にとって

も気軽に立ち寄ることができ、毎回約5,000人が訪れています。各地の郷土野菜などを身近に購入できるマルシェは、都市と地方を結ぶ交差点になっています。

青空市場×丸の内マルシェ

@丸ビル1Fマルキューブ

2013年は寺岡精工とコラボし、はかり売りスタイルの

2013年度実績

【行幸マルシェ】実施回数 23回／来場者数 111,044人

【丸の内マルシェ】実施回数 2回／来場者数 9,804人

お問い合わせ

青空市場 03-5755-0480

受付時間 平日10:00～17:00

http://aozora-ichiba.co.jp/marche/marche_top

「グラムマルシェ」

を開催。売り場の生産者と直接コミュニケーションをとりながら必要な分量だけを購入するスタイルは、大量生産、大量消費という消費の在り方を考え直すきっかけにもなりました。



環境 **新しい電力供給はじまる**

2014年4月より、新丸ビルでは、新しい部分供給スキームを活用して、契約電力の約半分に相当する電力を再生可能エネルギーでまかっています。

2013年度実績

再生可能エネルギーの割合 50%

新しい電力供給のスキーム

これらの電源は、環境負荷の低減に役立つだけでなく、日本で初めて「震災復興支援」、「循環型社会の構築」、「自産自消」という3つのテーマをもつ「物語のある電気」です。2015年度から運用開始が予定される東京都環境確保条例・排出総量削減義務「第2計画期間」における「低炭素電力」に認可される見込みです。

震災復興支援

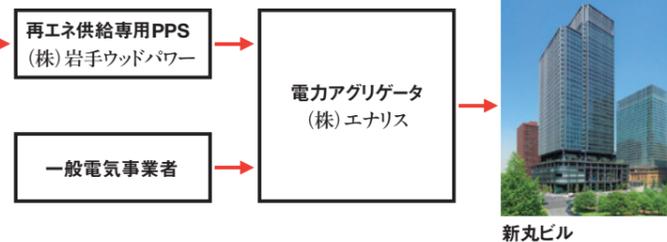
木質バイオマス発電
(株)ウツティかわい
(岩手県宮古市)

循環型社会

バイオガス発電
バイオエナジー(株)
(大田区城南島)

自産自消

太陽光発電
三菱地所(株)
(千葉県佐倉市)



株式会社エナリス
常務取締役
渡部健さん

電力が自由化になると、水を飲むときに水源を選ぶように、電源を選ぶことができます。今回の取り組みはその先駆けです。新丸ビルから始まり、大丸有全体の面的な取り組みになれば、エリア内での電力の融通が可能にもなり、大きな効果が得られます。大丸有には、これからの日本のモデルになってほしいと思っています。

社会の課題を解決し世界へ“いい波紋”を広げるまち

創造 環境 **丸の内朝大学**

丸の内朝大学は2013年に5周年を迎えました。「学びのコミュニティ」の場は、丸の内から外に向けて大きく広がっています。とくに、地域プロデューサークラスを中心とした、各地域との連携は高く評価され、全国の自治体からコラボレーションのオファーが届いています。

2013年度実績

年間クラス数 96クラス

年間受講者数 3,100人

ホームページ

<http://asadaigaku.jp/>

東北復興・復興トレーニングセンタープロジェクト(協賛キリン株式会社)

丸の内朝大学初の1年間をととしてのカリキュラム。単なる学座ではなく、東北の復興を担う「新しい農業ビジネス」を創出するためのアイデアを考え、それを

実際にプロジェクトとして実践しています。さらに、東京クラスとともに「農業経営リーダーズネットワーク in 東北(東北クラス)」を開講。両者が連携しながらカリキュラムを進行し、「東京と東北を一枚岩にする」ための環境を整えることができました。



日本を地域からデザインする! 能登編

全国初の搭乗率保証制度を導入している能登空港の搭乗率を向上させるため、能登の魅力を首都圏に発信するアイデアを考えました。



朝大学テレビ

朝大学の活動を、外部へ発信する「朝大学テレビ」が、2014年4月から10分間の生放送を開始しました。



ソーシャルプロジェクト

受講生たちが自主的に、社会に「いいこと」「楽しいこと」を発信するソーシャルプロジェクトも広がりをみせています。写真は、トライアスロン大会に、応援で参加をするチアリーディングクラスのMorning★Diamonds。



5周年記念シンポジウム

2013年6月、丸ビルホールに約300人を集めて、「学びのコミュニティ」の可能性と将来性について熱い議論が交わされました。

PERFORMANCE

大丸有エリアを、環境面のトリビア的な数値で紹介します。

皇居内に生息・生育する動植物の種類

皇居は、大都市東京の中心に位置しながら緑に溢れ、多数の動植物が生息・生育する生き物の宝庫です。2013年5月に独立行政法人国立科学博物館から発表された、「皇居の生物相調査(第Ⅱ期)」によると、植物711種、動物2,737種が確認されたそうです。そんな皇居に隣接する大丸有の植物、動物にはどんな特徴があるか調べてみました。

植物 **711** 種



動物 **2,737** 種

植物

再開発によるビルの建替にともない、ビル街の大丸有でも、緑量が増えてきています。春になるとケヤキの花や、ハナミズキの花、オオイスノフグリの花を見かけることができます。夏には、エンジュやクちなシ、サルスベリも花を咲かせます。秋になると銀杏を実らせたイチョウも目にすることができます。

動物・鳥

皇居にはタヌキが生息しています。皇居外苑でも稀に見ることができます。豊かな森がある皇居では鳥類の種類と数が増えているようです。隣接する大丸有でもカワセミ、コゲラ、ヒヨドリなどを観察することができます。戦後の一時期都心部からいなくなっていた、メジロ、オオタカ、ノスリなども戻ってきています。これも皇居の森があるおかげです。

昆虫

皇居では東京都内での絶滅が危惧されているチョウやトンボの種のほか、ハチヤクモも多くの種が確認されています。皇居は、昆虫類にとり良好な環境が維持されていることがわかります。隣接する大丸有でも、オオスジアゲハ、ナミアゲハ、ツマグロヒョウモンなどのチョウをはじめ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、コシアキトンボなどのトンボを見ることができます。

国立科学博物館は、「皇居には健全な自然環境が引き続き良く保存されており、他の都内緑地と比較して極めて多様な生物が生息している」といっています。大丸有は、皇居を中心とした(エコロジカルネットワークの一員として)人と生きものが共存する都市緑地のあり方について検討を深めています。

大丸有のCO2排出量

大丸有にある建物の2012年度におけるCO2排出量は約60万t-CO2でした。大丸有には、東京都がトップレベル事業所として認定したビルが、2013年度に新たに認定された丸の内パークビル(含三菱一号館)など全部で12棟あります。トップレベル事業所のCO2排出量原単位(0.085922 t-CO2/m²)はエリア全体の原単位(0.094243 t-CO2/m²)より低く、大丸有エリアの排出量を押し下げることに貢献しています。

また、トップレベル事業所とは別に、2011年に東京都が公表した「東京の低炭素ビルTOP30」には、新大手町ビル、丸の内ビルディング、三菱商事ビルディング、JPタワーなど8棟のビルが含まれています。今も再開発が進む大丸有では、環境性能が高いビルが次々に誕生しています。新たに竣工する低炭素ビルが、エリア全体のCO2排出量原単位をさらに低減させていくことが期待されます。



60 万t-CO2程度
(2012年度)

算出方法

東京都環境局へ排出量実績を報告しているビルの中から、2014年7月31日時点で2012年度の実績が公表された、48棟のCO2総排出量からCO2排出原単位を求め、大丸有エリアの推定延べ床面積に乗じて得た理論値。

皇居外苑のお濠の水量

約 **45** 万t

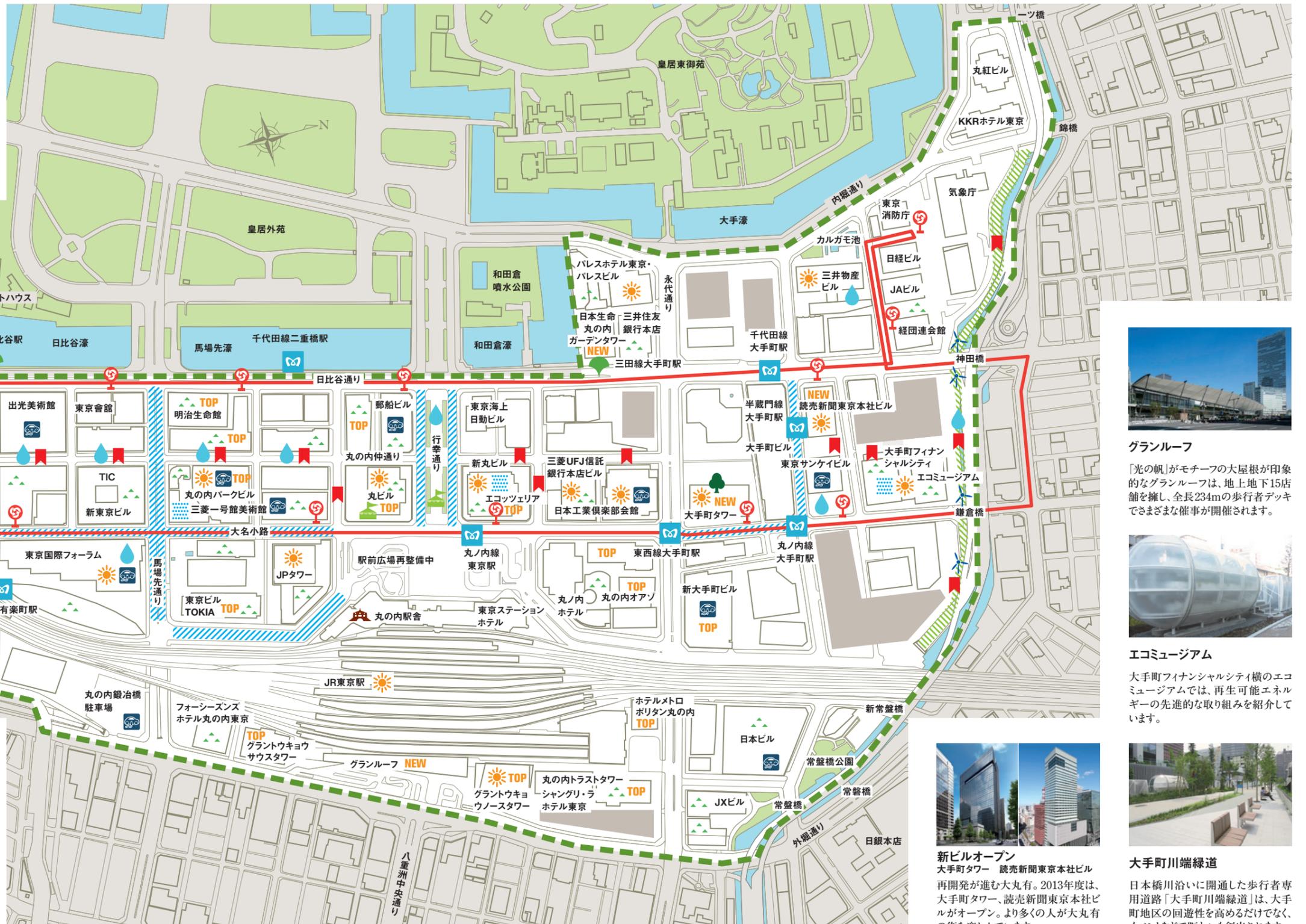
皇居を取り巻くお濠は12のお濠がつながってできています。半蔵門の土手を分水嶺として、桜田濠から左回りに凱旋濠、日比谷濠。半蔵濠から右回りに千鳥ヶ淵、牛ヶ淵、清水濠、大手濠、蛤濠、桔梗濠、和田倉濠、馬場先濠で、ここで日比谷濠につながります。最も低い位置にある日比谷濠と、最も高い位置にある半蔵濠との水位の高低差は約15mもあります。

日比谷濠に集まった水は、東京都の下水道に放流されています。お濠の総面積は約37万m²にのぼり、東京ドーム28.5個分、千代田区の総面積の約3.2%を占めています。お濠の平均水深は約1.25mで総湛水量は約45万t。これは公式競泳プール(50m×15m×1.5mとして)400個分の水量です。お濠の水の99.8%は雨水で、0.2%は地下鉄工事や高速道路工事の際に湧出した地下水です。

日比谷濠のそばには環境省による、水質浄化施設があります。また、再開発を進めている大手町1-1計画では、皇居に面している立地を活かし、お濠の水質改善のため、官民連携して浄化施設および大型貯留槽整備を進めています。また、皇居側には、皇居の自然と調和する緑豊かなコミュニティ広場(2,800m²)を設ける予定です。



SUSTAINABLE ACTION MAP 2014



- 太陽光パネル
- 保水性舗装
- 打ち水プロジェクト実施エリア
- マルシェ実施エリア
- 丸の内シャトルのバス停
- 丸の内シャトルのルート
- 電気自動車の充電器
- 東京駅丸の内駅舎
- NEW** 新ビル
- パナーフラッグ展開エリア
- ドライミスト
- 屋上緑化
- 工事中の建物
- 大手町川端緑道
- 大手町の森
- TOP トップレベル事業所(東京都認定)
- 風力発電機



太陽光パネル

太陽光パネルによる発電が増え続けています。2013年は前年から2カ所増えた15カ所で、約1,102kWを発電しています。



保水性舗装

車道や歩道に保水性の高い路盤材を使用。雨の日は水たまりがでにくく、晴れの日には蓄えた水が気化して、まちの気温上昇を抑えます。



打ち水プロジェクト

打ち水で、ヒートアイランド現象を緩和。行幸通りなどでの打ち水イベントのほか、仲通りのショップによる「打ち水weeks」も実施。



丸の内マルシェ

行幸地下通路と丸ビルで開催される、ファーマーズマーケットに、2013年は約12万人が集まり、丸の内の定番イベントとなりました。



丸の内シャトル／ゼロタクシー

大手町・丸の内・有楽町を結ぶ無料巡回バス「丸の内シャトル」と電気自動車の「ゼロタクシー」は、大丸有を代表する環境対応の乗り物です。



東京駅丸の内駅舎

2012年10月にリニューアルオープンした丸の内駅舎。歴史と先進性の融合した魅力ある場所として、連日多くの人で賑わっています。



大手町の森

大手町タワーの西側には、3,600 m²の大手町の森が出現。都市に森を再生することでヒートアイランド現象が緩和されます。



パナーフラッグ

東京都におけるエリアマネジメント広告の第一弾であるパナーフラッグ。丸の内仲通りおよびその周辺で見かけることができます。



グランルーフ

「光の帆」がモチーフの大屋根が印象的なグランルーフは、地上地下15店舗を擁し、全長234mの歩行者デッキでさまざまな催事が開催されます。



エコミュージアム

大手町フィナンシャルシティ横のエコミュージアムでは、再生可能エネルギーの先進的な取り組みを紹介しています。



新ビルオープン

大手町タワー 読売新聞東京本社ビル再開発が進む大丸有。2013年度は、大手町タワー、読売新聞東京本社ビルがオープン。より多くの人が大丸有の街を楽しんでいます。



大手町川端緑道

日本橋川沿いに開通した歩行者専用道路「大手町川端緑道」は、大手町地区の回遊性を高めるだけでなく、イベントなどで賑わいも創出されます。